

最小限の手間とコストで実現

【中小企業向け】 オフィスWi-Fi導入ガイド



はじめに： 中小企業におけるオフィスWi-Fi化の現実

昨今ノートPCやスマートフォン・タブレットの急速な普及やそれに伴う働き方の変革によりオフィス内のネットワーク環境の無線化は必須となってきました。

充実した情報システム部門がある大企業ならともかく、一般的な中小企業では情報システムの専任担当者が1人しか存在しない、いわゆる”ひとり情シス”の状態だったり、総務担当者が情報システム業務を兼務していたりすることが多いと言われています。

そのような中小企業において、**オフィスに快適なWi-Fi空間を実現するのは、意外と大変です。**

特に、莫大な初期費用をかけて工事を実行したにも関わらず、実際に使ってみると「**オフィスの場所によって電波が弱い**」「**オフィスに社員が多いと通信速度が遅くなる**」などの**不満の声**が上がり、また工事を実施しないといけなくなるケースも発生します。

本稿では、そのような事態に陥らないように**オフィスのWi-Fi環境を構築する際に気を付けるべきポイント**を詳しく解説します。

初めてオフィスのWi-Fi環境を構築する際に陥りがちな罠

「**オフィスをWi-Fi化**」しようと思ったら、**無線アクセスポイントの設置が必要です。**

アクセスポイントあるいはWi-Fiルータとは、ノートPCなどの端末を電波を使って有線インターネットへ中継したり、複数の端末間を無線で相互に接続させるための中継（ブリッジ）機器のことです。

アクセスポイントは家電量販店でも売っているため入手しやすいのですが、ここに落とし穴があります。**一般的に家電量販店で売っているアクセスポイントは家庭向けのもの**です。

これをオフィスで利用すると、もともとの基本性能がオフィス利用を想定していないため、大人数での同時接続に対応していなかったり、カバーできるエリアが狭かったりして、**快適なオフィスWi-Fi環境を実現できません。**

家庭用アクセスポイント



業務用アクセスポイント



初めてオフィスのWi-Fi環境を構築する際に陥りがちな罠

では、多くのオフィスはどうしているかというと、**専門のネットワーク業者に依頼して、床下などに複数のLANケーブルを這わす工事を実施します。**

一般的なアクセスポイントは必ずLANケーブルに接続しなければなりません。いくらオフィス向けの機器とは言え、1つのアクセスポイントでは、広いオフィスや大人数での利用をカバーできません。会議室や執務室などオフィスのあらゆる業務スペースでインターネットを使えるようにするためには複数のアクセスポイントを設置する必要があり、その結果、複数のLANケーブル工事が必要となるのです。

ただし、**この方法にも欠点**があります。

それは

- ・ **工事費用が発生するために初期費用が多額になること**
- ・ **オフィスの移転や拡大・縮小の度、工事費用が発生すること**
- ・ **設置後に接続できなかった場合、改めて工事が必要になること**

などです。

働き方が多様化し、リモートワークなども急速に普及している中では、**オフィスのネットワーク環境も柔軟に対応できるものにする必要があります。**

次頁では、このような問題を解決する方法を解説していきます。

抑えておくべきオフィスのWi-Fi化 基本手順

オフィスをWi-Fi化する一般的な方法は、前頁で記載したとおり、ネットワーク業者に依頼をすることです。ただし、その前にお客様で抑えておくべき、3つのポイントがあります。これを確認せずに業者任せにしてしまうと、オフィス環境に適していないネットワークとなってしまう可能性がありますのでご注意ください。

では、その3つのポイントです。

①カバーしたいエリアを明確にする

電波は遮蔽物があると減衰します。特に鉄製の扉などがあると、電波は届かなくなります。壁や扉で囲われた会議室でもWi-Fiを利用したいなど、Wi-Fiを利用するエリアを抜け漏れなく確認しましょう。

②接続する端末数を確認する

Wi-Fiを利用する社員数で考えてしまいがちですが、大事なものは接続する端末数です。社員一人とはいえ、PC、スマホ、タブレットなど多数の端末を保有しています。また、プリンタやオフィス家電など、ネットワークを利用している端末はたくさんあります。

③レイアウト変更の時期を確認する

一般的な場合、人事異動に伴うレイアウト変更が発生すると、それに応じて新たなネットワークの再設定が必要となります。そのため、直近でレイアウト変更が発生する場合は、その後スケジュールを組んだほうが安全です。

押さえておくべきオフィスのWi-Fi化 基本手順

以上の3つを踏まえて、慎重にアクセスポイントの台数や配置を設計すれば、工事後も不便のないネットワーク環境を高い確率で得られるでしょう。1台のアクセスポイントがどれくらいのカバーエリアや最大端末接続数であるかは工事業者にしっかり確認しましょう。

是非ご確認いただき、ネットワーク環境の構築にご活用ください。

一方で、**どんなに事前に確認をしても、想定外のことが発生することは多くあります。**

- ・社員が急激に増えた
 - ・業者の言う通りアクセスポイントを設置したが、一部つながりにくいエリアがあった
- などなど。

都度状況に合わせてネットワーク環境を構築したい方は、「ケーブルいらず」をご利用いただくと便利です。

「ケーブルいらず」が役に立つ 3つの理由

「ケーブルいらず」は、ネットワークに詳しい方はもちろんですが、**ネットワーク構築の経験がない方でも簡単にオフィスをWi-Fi化できるサービス**です。「ケーブルいらず」がお手元に届いたその日から、誰でも簡単にオフィスをWi-Fi化することができます。「ケーブルいらず」の大きな特徴は、アクセスポイント同士をLANケーブルで接続する必要がないことです。

① 配線工事が不要

② レイアウト変更も自在に行える

③ 設定が簡単、セキュリティも安心、
勤怠管理にも使える

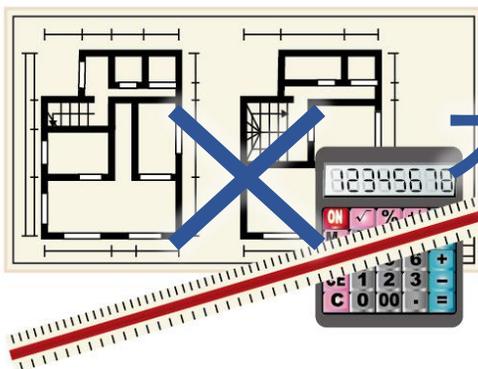
① 配線工事が不要

「ケーブルいらず」は、その名の通り、最小限のLANケーブルでオフィス全体をWi-Fi化できるサービスです。

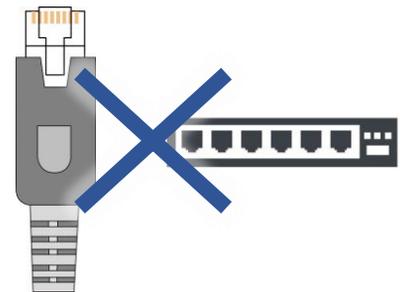
具体的には、**1台目をLANケーブルでインターネットに接続すれば、2台目以降は電源に挿してオフィス内の適した位置に置いていくだけで、オフィス全体をWi-Fi化できます。**

そのため、従来であれば、工事業者をお願いして床下にLANケーブルを這わせていた工事が不要になり、オフィスWi-Fi化を実現するためにかかっていた2週間程度の日数を圧倒的に短縮し、費用も大幅に削減できることです。環境にもよりますが、工期をわずか一日、費用を10分の1以下に削減可能なケースもあります。

配線設計



配線工事



不要

② レイアウト変更も自在に行える

「ケーブルいらず」でオフィスをWi-Fi化すると、その後のレイアウト変更や引っ越しも簡単に実施できるようになります。

従来であれば、レイアウト変更のたびに必要だった配線工事が不要となります。新たなオフィスレイアウトに合わせて、ケーブルいらずを移動し電源に挿していただくだけで、快適なWi-Fi空間を再現できます。

もしも接続が悪いエリアがあれば、費用を発生させずに何度でも簡単にやり直しが可能です。また、端末の接続台数が増えた場合は、もう一台「ケーブルいらず」を追加するなど、その後の変化にも自由自在に対応が可能です。



③ 設定簡単、セキュリティも安心、 勤怠管理にも使える

「ケーブルいらず」にはクラウド管理システム PicoManager®が標準でついています。そのため、**初期設定もマニュアル通りに行えば、専門知識がなくても簡単にオフィス**をWi-Fi化することができます。

また、リアルタイムでネットワーク環境を確認できるため、**万が一部外者の端末がネットワークに接続していたとしても検知することが可能**です。

さらに**従業員の端末接続状況もモニタリング**できるため、隠れ残業の検知など、人事担当者にとって勤怠管理システムの補助ツールとしても活用頂けます。



クラウドで
簡単設定



最新規格で
高セキュア



端末状況の確認で
勤怠管理

まとめ

本資料では、オフィスのWi-Fi化の基本的な方法や抑えるべき内容をまとめました。

是非快適なオフィスのネットワーク環境にお役立ていただけますと幸いです。

「ケーブルいらず」へご興味を持っていただいた方は以下よりお気軽にお問い合わせいただければと思います。

Wi-Fi化に関するご相談や「ケーブルいらず」のデモなども受け付けております。

デモなどのお問い合わせはこちら